

## ■総括

少子・高齢社会の一層の進展や人口減少並びに核家族化等に伴い、一人暮らし高齢者の増加や地域の連帯感の希薄化によるコミュニティの脆弱化が叫ばれる中で、地域においてはひきこもり、孤独死、消費者被害など地域からの孤立を起因とする様々な生活課題が深刻化している。

本会では、こうした状況を深く認識し、地域福祉をさらに推進するため行政等の関係機関、各種団体・専門機関等との連携・協働体制を強化し様々な事業を実施した。常に住民や利用者の立場に立ち、皆が助け合い、支え合いながら安心して住み慣れた地域や自宅で生活できるよう地域福祉事業や介護保険事業に取り組んできた。

平成26年度の重点目標の1点目として、住民参加・協働による地域福祉事業の推進を掲げ取り組みを行った。多様な地域ニーズが増加している中、地域住民の参画と各関係機関との連携を強化した。

2点目の地域における支え合いの仕組みの構築では、介護保険制度等で対応できないニーズへの取組みが課題となっている。公的サービスの提供と共に住民参加によるインフォーマルな支援も必要となっているため、住民参加型のサービスの実施に向けた取り組みを進めた。認知症高齢者等見守りネット事業や災害ボランティア事前登録制度を新たに実施し、住民相互の支え合い・助け合いの仕組み作りを推進した。

3点目の地域に根ざした総合相談・援助体制の確立では、問題を抱える世帯や個人においてはその内容が複雑化、多様化している状況にある。他の関係機関と連携が必要なケースも多く、総合的に支援できる社協の役割が求められており、職員や相談員の専門性を高めながら適切に対応できる体制づくりに努めた。

4点目の社協会員の加入促進では、事業を通じて会費の目的、使用用途の説明などを行ったものの加入数は昨年度と比べ減少となった。会費が貴重な財源になっていることを、地域福祉活動支援事業など各種事業を通して今後も機会あるごとに周知したい。

5点目の低所得者層への支援の強化では、昨今の雇用悪化による厳しい経済状況の中で、生活費等の資金のことで相談にみえるケースが年々多くなっている。最近では複合的な課題を抱えたケースが多かったため、住民にとって身近な相談機関として丁寧な対応に心がけ、各関係機関と連携しながら取り組んだ。

6点目の透明性、中立性、公平さのある運営の確立では、地域住民の代表である理事が法人の方針決定に参画し、評議員から広く意見を聴き適正な経営に努めた。また役員監査は年2回実施し、公認会計士による指導も月1回実施している。事業計画、予算、事業報告、決算は社協だよりやホームページで全市民に公開している。

7点目の中長期の経営計画と新たな組織体制の確立については、毎月1回、法人経営会議を開催し、「増収と経費削減」を目標に取り組んだ。また、職員採用試験を2回実施して専門職の確保に努めた。

8点目の人材育成と教育システムの確立では、福祉の基盤は人材であり、質の高いサービスを提供するために、職員にはヒューマンスキルと高い専門性が求められている。外部研修参加の他、内部研修として新任研修、交通安全研修、腰痛予防研修、メンタルヘルス研修など多方面にわたって研修の機会を提供し職員がやりがいと誇りを持って従事できる環境の整備に努めた。新たな取り組みとして、法人の期待する職員像に基づき職務能力の開発や成長を目的とした人材育成として「リーダー研修」を実施した。また、内部登用試験を実施し人材の確保やモチベーション維持につなげた。

職員の離職率は7.4%台となっている。また、育児休業は対象となっている職員12名全員が取得しており、取得しやすく、また復帰しやすい職場環境が定着している。全職員を対象とした面接を年1回実施しており、個別指導を行うとともに職員の意見を聴く機会としている。定年退職者には、高年齢雇用継続を説明して本人の意思を確認している。

## 1、会務の運営

定款に基づき、適正な法人運営を図るため、理事会、評議員会を開催し、各種規程の見直しや住民参加の事業推進に取り組んだ。内部監査として、役員監事3名により財務と業務の監査を年2回実施し、外部監査としては公認会計士から月に1回指導を受け、透明性のある会計処理と財務状況の分析を行った。

### 【理事会の開催】

開催日	会場	出席者	案件
平成26年 5月27日	北秋田市森吉生活支援ハウス	理事13名 監事 1名	① 平成25年度事業報告並びに収支決算について ② 規程の改正について ③ 平成26年度第1次補正予算(案)について
平成27年 2月 9日	北秋田市森吉生活支援ハウス	理事12名 監事 2名	① 平成26年度第2次補正予算(案)について ② 評議員の同意について
平成27年 2月26日	北秋田市森吉生活支援ハウス	理事11名 監事 3名	① 会長、副会長の互選について

平成27年 3月24日	北秋田市森吉生活支援ハウス	理事 14名 監事 2名	① 平成26年度第3次補正予算(案)について ② 規程の改正、規程の制定及び廃止について ③ 平成27年度事業計画(案)並びに収支予算(案)について
-------------	---------------	-----------------	--

#### 【監事会の開催】

開催日	会場	出席者	案件
平成26年 5月21日	北秋田市森吉生活支援ハウス	3名	① 平成25年度事業報告並びに収支決算について
平成26年11月27日	北秋田市地域福祉センター	3名	① 平成26年度上半期事業報告並びに収支決算について

#### 【評議員会の開催】

開催日	会場	出席者	案件
平成26年 5月27日	北秋田市森吉生活支援ハウス	評議員 26名 監事 1名	① 平成25年度事業報告並びに収支決算について ② 平成26年度第1次補正予算(案)について
平成27年 2月23日	北秋田市森吉生活支援ハウス	評議員 24名	① 平成26年度第2次補正予算(案)について ② 理事の選任について ③ 監事の選任について
平成27年 3月24日	北秋田市森吉生活支援ハウス	評議員 27名	① 平成26年度第3次補正予算(案)について ② 平成27年度事業計画(案)並びに収支予算(案)について

#### 【正副会長会議】

開催日	会場	出席者	案件
平成26年 5月23日	北秋田市地域福祉センター	3名	① 5月27日開催の理事会、評議員会に上程する議案について
平成27年 3月20日	本所（NTT鷹巣ビル）	4名	① 3月24日開催の理事会、評議員会に上程する議案について

【役員・評議員研修】

開催日	視察先	参加者
平成26年10月27日 ～ 10月28日	○医療法人社団帰厚堂「ケアセンター南昌」(岩手県紫波郡矢巾町) ○「いわて県南パースナル・サポートセンター」(岩手県奥州市水沢区)	15名

【各地域福祉センター運営委員会】

開催日	地区名	会場	出席者	案件
平成26年7月28日	阿 仁	北秋田市役所阿仁支所	6名	① あに地域福祉センター事務所移転について
平成27年1月13日	阿 仁	北秋田市役所阿仁支所	10名	① 平成26年度上半期事業報告並びに収支状況について
平成27年1月14日	合 川	あいかわ地域福祉センター	7名	② 平成27年度事業計画に伴う地域課題について
平成27年1月15日	森 吉	北秋田市森吉生活支援ハウス	8名	③ その他
平成27年1月16日	鷹 巣	北秋田市地域福祉センター	10名	

【苦情解決第三者委員研修会】

開催日	会場	出席者	内 容
平成27年3月26日	北秋田市森吉生活支援ハウス	11名	① 報告「福祉サービスに関わる苦情解決研修会」に参加して ② 報告「苦情解決第三者委員相談日設置の結果について」 ③ 相談・苦情の内容及び対応結果について ④ 意見交換

### 【たすけあい資金運営委員会】

開催日	会場	出席者	内容
平成26年11月6日	北秋田市森吉生活支援ハウス	7名	① 運営に関する検討事項について ② 償還状況について（貸付・償還状況・滞納者への督促状況・償還免除等）

### 【法人経営会議】

毎月1回、「増収と経費削減」に向け、幹部職員、現場の職員が一堂に会し協議している。職員の経営感覚の醸成、意識改革につながっている。

### 【支所長会議】

毎月1回、各支所長、部長、施設長等の管理職が出席し、各支所施設の情報の交換伝達及び事務事業の調整を行っている。

### 【運営会議】

毎月1回～2回、各センター（事業所）、各施設において情報の共有と連絡調整を行っている。法人の方針や事業内容の周知がなされている。

### 【苦情解決会議】

毎月1回、各センター（事業所）、各施設において事務局、現場の職員が一堂に会して利用者の方からの苦情に対して真摯に取り組む体制づくりに努めている。職員のリスクに対する意識を高め、リスクマネジメントの徹底を図った。苦情とヒヤリハットは小さな事柄でも常に報告し、全職員がサービスの向上と改善、再発防止に努めている。

### 【看護専門部会】

毎月1回開催し、各事業所の看護師が最新の医療について学び、情報交換を行っている。専門職に必要とされる知識と技術を高め、看護師のスキルアップにつなげるよう努めている。

### 【感染症対策委員会】

毎月1回、各事業所の看護師と事務局をメンバーに委員会を開催している。感染症について知識を深めるために専門家を講師として勉強会を実施し、最新の情報を職員へ落とし込み、危機意識を高めるようにしている。職員の感染症予防の一環として全職員を対象にインフルエンザの予防接種を実施している。

### 【安全衛生委員会】

毎月1回、労働災害防止の取り組みや職員の健康管理を目的に安全衛生委員会を開催している。職員の危険又は健康障害を防止するための、基本となるべき対策を衛生管理者、産業医の指導を受けて取り組んでいる。

### 【各種委員の派遣状況】

グループホームふなみ 管理者 成田啓悦を秋田県社会福祉協議会主催の「認知症介護実践者研修」(第1回)(第2回)、認知症対応型サービス事業管理者研修、認知症介護実践リーダー研修の講師として派遣している。

開催日	会議等名称	会場	内容
平成26年 4月10日	第1回カリキュラム 検討委員会	秋田市 秋田県社会福祉会館	カリキュラムの策定
平成26年 6月11日	平成26年度 認知 症介護実践者研修①	秋田市 秋田県社会福祉会館	指導「実習課題の設定・実 習の心構え」
平成26年 6月16日 ～ 18日	平成26年度 認知 症介護実践者研修①	グループホームふなみ	実習「施設実習での指導」 9人
平成26年 7月 2日	平成26年度 認知 症介護実践者研修①	グループホームふなみ	指導「中間報告会」
平成26年 8月 8日	平成26年度 認知 症介護実践者研修①	秋田市 秋田県社会福祉会館	指導「実践課題報告会」
平成26年 8月20日	平成26年度 認知 症対応型サービス事 業管理者研修(第1 回)	秋田市 秋田県社会福祉会館	講義「地域等との連携」
平成26年 9月18日	平成26年度 認知 症介護実践者研修②	秋田市 秋田県社会福祉会館	指導「実習課題の設定・実 習の心構え」
平成26年 9月24日 ～ 26日	平成26年度 認知 症介護実践者研修②	グループホームふなみ	実習「施設実習での指導」 9人

平成26年10月 7日	平成26年度 認知 症介護実践者研修②	グループホームふなみ	指導「中間報告会」
平成26年10月15日	平成26年度 認知 症介護実践リーダー 研修	秋田市 秋田県社会福祉会館	講義「スーパービジョンと コーチング」
平成26年10月21日 10月22日	平成26年度 認知 症介護実践リーダー 研修	グループホームふなみ	実習「施設実習での指導」 3人
平成26年11月 5日	平成26年度 認知 症介護実践リーダー 研修	グループホームふなみ	指導「中間報告会」
平成26年11月14日	平成26年度 認知 症介護実践者研修②	秋田市 秋田県社会福祉会館	指導「実践課題報告会」
平成26年11月20日	平成26年度 認知 症対応型サービス事 業管理者研修（第2 回）	秋田市 秋田県社会福祉会館	講義「地域等との連携」
平成26年12月12日	平成26年度 認知 症介護実践リーダー 研修	秋田市 秋田県社会福祉会館	指導「研修のまとめ」
平成27年 2月19日	平成26年度 認知 症対応型サービス事 業管理者研修（第3 回）	秋田市 秋田県社会福祉会館	講義「地域等との連携」
平成27年 2月26日	第2回カリキュラム 検討委員会	秋田市 秋田県社会福祉会館	カリキュラムの見直し等

【市社協全体の職員研修会】

開催日	研修名	内容
平成26年 4月1日 2日 8月6日 7日	新任職員研修	職務の遂行に役立つ基礎知識と基本能力を習得することを目的として開催。新規採用職員を対象に2日間の研修を2回実施。
平成26年 5月29日 5月30日 6月 2日	全戸訪問活動事前研修会	全戸訪問活動を実施するにあたっての進め方、社協の事業等を学ぶ。
平成26年10月20日 10月24日	交通安全研修	冬道の運転と事故原因、危険個所について再確認し、社協職員としての交通安全に関する意識を高めた。 講師 北秋田警察署 職員365人参加
平成26年11月25日 12月 2日 12月 5日	腰痛予防研修	講師 運動指導士 関村 幸子 氏 内容 「腰痛予防改善・運動不足解消対策」 職員340人参加
平成26年12月24日	正しい手洗い講習会	インフルエンザやその他感染症予防の徹底を図るため、感染症予防の基本となる手洗いの正しい方法を学ぶ。 講師 ・北秋田市手洗いマスター ・北秋田保健所 技師 袴田 知之 氏 職員52人参加
平成27年 3月 5日	メンタルヘルス研修会	講師 寺田心理教育研究所 寺田 誠 氏 職員55人参加

【リーダー研修】

開催日	研修名	内容
平成26年6月19日	リーダー研修①	リーダーとしての心構えや実践すべき具体的な行動論を学ぶ。 演題 「新しい時代の働き方」 講師 元富士ゼロックスファイブライ社長 元目白大学マイ学長 辻 端 敏 彦 氏 職員63人参加



平成26年11月14日	リーダー研修②	<p>【午前】</p> <p>演題 「生活困窮者自立支援法と社会福祉協議会の役割」</p> <p>講師 日本地域福祉研究所副理事長 田園調布学園大学名誉教授 小野 敏明 氏</p> <p>【午後】</p> <p>研修名 「生活困窮者自立支援法研修会」</p> <p>内 容 講演、事例報告</p> <p style="text-align: right;">職員62人参加</p>
-------------	---------	--

※ その他、各センター、各施設、各事業所においても毎月1回、研修計画を基に勉強会を行い、資質向上に努めている。

※ 職員にとって確かな知識と高い技術を身につけることは不可欠であり、職員の資格取得を奨励している。結果として、平成26年度においては新たに社会福祉士2名、介護福祉士4名、介護支援専門員1名が合格した。

## 2、総合企画・啓発活動

### ① 第10回北秋田市社会福祉大会

- ・開催日 平成26年11月21日（金）
- ・会 場 北秋田市文化会館
- ・参加者 600人
- ・テーマ 「つながる絆 あなたのやさしさ みんなの力」
- ・活動報告 「社協活動の今までとこれから」  
北秋田市社会福祉協議会 事務局長 小笠原 信
- ・記念講演 「おしゃべりコンサート」  
新垣 勉 氏

式典では福祉活動に貢献した6団体と7名を表彰したほか、秋田県共同募金会長表彰の伝達も行われた。

第2部の活動報告では、合併10周年を契機として10年間の社協の歩みを振り返るとともに、現在の地域福祉課題を踏まえながらこれからの社会福祉協議会の役割を報告した。

記念講演では、盲目のテノール歌手新垣勉氏を招き、絆と命の尊さについて語りながら、暖かく心の奥底にしみ入るような艶と張りのある歌声を届けた。コンサートに魅了された参加者からは「感動して涙が止まらなかった」「心が洗われた」「勇気と希望をいただいた」などの感想が寄せられた。

## ② ふれあい祭り

- ・開催日 平成26年8月2日（土）
- ・会場 あいかわ地域福祉センター
- ・参加者 200人

中学生をはじめ地域住民、ボランティアの協力のもと開催されている。共同募金の配分金で実施されている事業であることのPRも含め、連帯感を持った地域づくりを考える契機になっている。

## ③ あいかわ福祉の集い

- ・開催日 平成26年11月8日（土）
- ・会場 合川農村環境改善センター
- ・参加者 200人

住民参加の福祉活動をめざして開催。共同募金の配分金で実施されている事業であることのPRも含め、福祉課題を考える契機になっている。

## ④ 「ケアタウンたかのす」における啓発活動

開催日	事業名	内容
平成26年 4月30日 ～5月 6日	桜まつり	植樹した桜の開花に合わせて歌謡ショー、出店、施設内の飾り付けなどを行い季節感を味わっていただいた。
平成26年 6月12日	花の広場	地域のボランティアや近隣の保育園、小中学生の参加を得て施設敷地内の花壇に植栽を実施した。また標語コンクールを行い優秀作品を表彰した。参加者 約250人
平成26年 8月31日	夏祭り	出店、イベント、近隣地区の親子会や婦人会の協力を得て御輿、盆踊りなどを行い地

		域の方々との交流を深めた。親しまれる施設を目的とした事業の一環として定着させたい。
平成26年 9月11日	敬老式	老健ご利用者を対象に、式典の他七日市保育園児の遊技披露、来賓及びご家族との会食により、敬老を祝す行事として開催した。
平成26年12月20日	忘年会	会食や演芸を楽しんでいただき、スライド上映で一年を振り返りながら、ご利用者及びご家族、地域の方々の交流の場としている。
月1回	ケアタウンだより発行（1回450部発行）	施設内の行事や生活状況などをご家族始め関係者へお知らせしながら、開かれた施設として情報の発信に努めている。
随時	施設見学の受け入れ  ボランティア・実習の受け入れ	施設への理解を深めていただくために、見学受け入れを随時行っている。125人 児童、生徒、地域住民等のボランティア及び専門技術の実習などを受け入れている。  延241人

⑤ 「もろび苑」における啓発活動

開催日	事業名	内容
平成26年 8月 9日	納涼祭	雨により1日順延したが、地域住民の参加も多く、ボランティアの協力も得て定着した行事になっている。  参加者 約300人
平成26年 9月18日	運動会	入所者の他、デイサービス利用者、自治会老人クラブ、保育園、小学生も参加し地域の世代間交流の場にもなっている。  参加者 174人

## ⑥ はり・あんま施術奉仕

- ・開催日 平成26年8月27日～29日
- ・会場 老人憩いの家「ことぶき荘」
- ・延利用者 90人

秋田県立盲学校の生徒4名、先生2名による施術奉仕が行われた。長年行われているため、住民の方々は心待ちにされており定着している事業である。しかし、年々、生徒数の減少が続いていることや住民の方も高齢となり、会場に来るまでの交通手段が課題となっている。

## ⑦ 社協だよりの発行

- ・発行月 平成26年4月、6月、8月、10月、12月、  
平成27年2月（年6回）
- ・部数 14,400部
- ・内容 地域の福祉活動、在宅福祉サービス、介護サービス、心配ごと相談、共同募金等、読みやすい社協だよりにして、活字の大きさやレイアウトの工夫に取り組んだ。

## ⑧ 苦情解決第三者委員相談日

- ・開催日 平成26年7月30日～8月1日  
平成27年1月26日～30日
- ・会場 各事業所15カ所
- ・相談者 30人

平成26年度は2回開催。各事業所に第三者委員が出向いて、相談する側の心情に配慮しながら苦情を申し出やすい環境整備に取り組んだ。第三者委員が普段の会話の中から集約したことによって、様々な意見を伺う機会となった。

## 3、福祉を支える人づくり

### ① 介護職員初任者研修

- ・開催日 平成26年10月1日～11月26日
- ・会場 北秋田市地域福祉センター、補助器具センター
- ・受講生 17人

北秋田地域における介護、福祉を担う人材育成の一翼を担うとともに、受講者には個別に面接を行い就労支援を実施した。受講者17人全員が資格取得となり、

新たに就業に結びついた方は4人（既に就業している方を除く）だった。

## ② 福祉体験学習

<高齢・障害・児童施設の職場体験・朗読ボランティア・福祉用具体験>

- 開催日 平成26年6月 6日  
会 場 合川東小学校  
参加者 合川東小学校5年生 15人
- 開催日 平成26年7月29日～8月12日（9日間）  
会 場 児童館、地域福祉センターデイサービス  
地域福祉センター録音室（朗読ボランティア）  
参加者 鷹巣中学校2・3年生 26人
- 開催日 平成26年10月21日  
会 場 綴子小学校  
参加者 綴子小学校4年生 15人
- 開催日 平成26年12月26日～1月11日（8日間）  
会 場 児童館、地域福祉センターデイサービス  
地域福祉センター録音室（朗読ボランティア）  
参加者 鷹巣中学校1～3年生 40人
- 開催日 平成26年11月7日  
会 場 大阿仁小学校  
参加者 大阿仁小学校3、4年生 8人

## ③ ボランティアスクール

- ・開催日 平成26年8月5日～6日（1泊2日）
- ・会 場 ケアタウンたかのす・サポートハウスたかのす（宿泊場所）
- ・参加者 小学生 12人

夏休みを利用し、宿泊体験型のボランティアスクールを開催した。施設を利用している高齢者や障がい者とのふれあいを通じ、福祉の心を醸成する機会となった。

④ 福祉教育応援事業

地区名		年度	
		平成 25 年度	平成 26 年度
たかのす	件 数	9	9
	助成金額	350,000	360,000
あいかわ	件 数	4	4
	助成金額	160,000	160,000
もりよし	件 数	3	3
	助成金額	120,000	120,000
あ に	件 数	3	3
	助成金額	120,000	120,000
合 計	件 数	19	19
	助成金額	750,000	760,000

北秋田市内の小、中、高等学校の児童・生徒の福祉に対する理解と関心を深め、地域に根ざした福祉教育を実践していただくために助成を実施。各地域の伝統行事の継承・ボランティア活動に使用する用具費用等、助成金の使途は多岐にわたり福祉教育の活動の幅が広がったなどの意見があった。

⑤ 地域福祉活動支援事業

地区名		年度	
		平成 25 年度	平成 26 年度
たかのす	件 数	14	10
	助成金額	469,000	448,500
あいかわ	件 数	12	13
	助成金額	415,000	493,500
もりよし	件 数	16	19
	助成金額	883,000	932,500
あ に	件 数	12	12
	助成金額	448,500	481,000
合 計	件 数	54	54
	助成金額	2,215,500	2,355,500

自治会等の申込件数は増えていないものの、昨年度より事業内容が充実した自治会が増えたため助成金額は昨年度より増えている。今後は自治会単位でのいきいきサロンや居場所づくりをサポートしていくと共に、この事業の趣旨を周知し地域での支え合い、助け合い作りの構築を推進したい。

#### ⑥ 地域福祉活動モデル自治会推進事業

平成26年度3つの自治会・町内会にモデル事業を勧めたが、実施に至らなかった。

#### ⑦ ボランティア団体活動助成

公募によるボランティア市民活動応援事業としてプレゼンテーションを行い28団体29事業について2,135,163円を助成した。共同募金の助成が活動資金として有効に活用され、住民の理解や協力が得られるように努めている。しかし、ボランティア団体が高齢化などにより減り、同時に申請団体も減ってきている。次世代のボランティア育成も含め、今後も地域福祉への関心を高めながら活動への参加層を広げる運動を展開していきたい。

また、ボランティア保険には533件の加入があった。充実したボランティア活動を継続的に行っていただくためにも、保険加入への周知を図りたい。

#### ⑧ 世代間交流

- ・開催日 平成26年8月6日、7日、19日、20日、22日
- ・会場 青山荘・たかのすけセンターそよ風・地域福祉センター・ケアタウン  
・つづれこたえ伊之保・つづれこグループホーム・  
グループホームふなみ（7事業所）
- ・参加者 263人

鷹巣地区の児童館と児童クラブに通う児童と市内の7施設に入所している高齢者が手作りの紙相撲や、手あそびと踊りなどで交流を深めた。児童の高齢者を敬う心の育成と、高齢者には生き甲斐を感じてもらうことができた。

- ・開催日 平成26年11月13日
- ・会場 みちのく子供風土記館
- ・参加者 32人

子育てサポートハウスに通う親子と鷹巣地区の老人クラブの会員が共同でだまっこ作り交流会を開催し、昔ながらの料理の伝承、昔遊びで三世代32名が交流した。三世代で交流する機会が少ない若い母親世代には好評だった。

### ⑨ 除雪ボランティア活動

地区名	団体名	実施世帯
たかのす	秋田北鷹高校 170人	26世帯
	比内養護学校鷹巣分校中高等部 100人	9世帯
	鷹巣中学校 45人	5世帯
あいかわ	合川中学校 59人	5世帯
	秋田県民生協会 40人	4世帯
もりよし	森吉中学校 110人	10世帯
あに	阿仁中学校 35人	4世帯
	山一林業 8人	4世帯
	秋田県民生協会 13人	1世帯

除雪が困難な一人暮らし高齢者の方、障がい者世帯の方々を対象に実施している。昨年度と比較しても延べ参加者数、対象世帯ともに大幅に増えている。

学生は、地域のために活動をすることによって、人の役に立てる喜びや相手を思いやる気持ちが育ち、よい経験になった。

また、除雪時は毎年自治会、民生委員児童委員からも協力をいただいている。

### ⑩ サロンボランティア養成講座

地域の居場所づくりや介護予防の一環として、各地域で「サロン活動」を展開する中で、サロンボランティアの方々が、楽しみながらサロン運営を続けていただくための情報提供と地域福祉の活性化を目的にサロンボランティア養成講座を開催した。

高齢者の理解や接し方、高齢者の方が楽しく過ごせるレクリエーションメニューの紹介など社協職員が講師を努めた。

- ・開催日 平成27年2月24日
- ・会場 北秋田市交流センター
- ・参加者 50人



## ⑪ 災害ボランティア事前登録団体

災害時の迅速かつ機動的な復旧活動が展開できるよう、日頃から密接な連携体制を構築するために、各関係機関に事前登録を呼びかけたところ13団体に登録いただいた。

- 1) 平成26年4月23日、平成26年8月11日に災害ボランティア事前登録団体コーディネーター連絡会議を開催。
- 2) 平成26年8月20日にボランティアネットワーク会議を開催し、講師に「国境なき奉仕団」桑原 誠 氏をお招きし、「自然災害の猛威と被災者支援」の研修講義とロープワークの現場演習を行いながら有事の際のネットワーク強化に努めた。
- 3) 平成26年11月23日に登録団体でもある鷹巣阿仁青年会議所が行う災害研修に招かれ「災害ボランティアセンターと事前登録団体の役割について」の説明を行った。
- 4) 平成27年2月6日に今泉老人クラブに招かれ、防災面での実践力向上を図ることを目的に「地域防災講座」を行った。

#### 4、健康と生きがい、仲間づくり活動の推進

##### ① ふれあいいいきいきサロン

地区名		年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
たかのす	社協主催	開催回数	56	56	56	45
		参加実人員	131	131	106	97
		延参加者数	1,035	1,035	919	830
	自治会等主催	開催回数	—	—	—	138
		延参加者数	—	—	—	2,198
あいかわ	社協主催	開催回数	106	106	72	60
		参加実人員	82	85	32	33
		延参加者数	878	1,035	561	487
	自治会等主催	開催回数	—	—	—	92
		延参加者数	—	—	—	1,432
もりよし	社協主催	開催回数	127	202	44	46
		参加実人員	185	189	117	12
		延参加者数	1,630	1,880	614	409
	自治会等主催	開催回数	—	—	—	345
		延参加者数	—	—	—	3,932
あ に	自治会等主催	開催回数	111	100	121	115
		延参加者数	1,830	1,739	2,081	2,210
もろび苑	社協主催	開催回数	365	366	365	365
		参加実人員	16	7	3	1
		延参加者数	436	238	72	46
合 計	社協主催	開催回数	654	730	537	516
		参加実人員	414	412	258	143
		延参加者数	3,979	4,188	2,166	1,772
	自治会等主催	開催回数	111	100	121	690
		延参加者数	1,830	1,739	2,081	9,772

高齢者の閉じこもり防止・生き甲斐づくりとしての役割や地域住民が気軽に参加できる場として参加者から喜ばれている。地域福祉活動支援事業を活用していただき、自治会や町内会、民生委員児童委員等が主体となって運営支援を行っているサロンが増えるよう呼びかけていきたい。

参加者の高齢化はあるものの、参加することによって身体機能の低下防止につながっている。

② 介護予防教室（学んであんしん福祉講座）

地区名		年度				
		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
たかのす	開催回数	26	37	22	16	11
	参加者数	634	622	456	322	390
あいかわ	開催回数	36	43	32	40	53
	参加者数	469	537	384	503	831
もりよし	開催回数	20	5	11	0	5
	参加者数	266	50	95	0	80
あ に	開催回数	3	6	3	8	15
	参加者数	58	138	50	134	116
合 計	開催回数	85	91	68	64	84
	参加者数	1,427	1,347	985	959	1,417

住民の関心の高い認知症への理解、転倒予防、健康体操、歯の健康、介護保険制度、福祉用具等をテーマに自治会やグループを対象に地域の会館等を会場に開催した。地域に出向くことによって、参加者から常日頃困っていることを話してもらう機会にもなり、個別課題発見の場にもなっている。内容を充実させるとともに、今後も積極的に呼びかけながら地域に出向きたい。

③ 介護教室

地区名		年度				
		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
北秋田市	開催回数	5	4	3	1	2
	参加者数	113	75	47	14	40

市内全域を対象に2回開催して40人の参加があった。参加者からは好評で家庭でできる介護の幅が広がったとの声もあった。開催場所により遠方に住む方の参加が少なくなってしまうため、送迎等も含め多くの方が参加できるよう工夫したい。

#### ④ 介護者のつどい

地区名		年度	
		平成 25 年度	平成 26 年度
北秋田市	開催回数	2	2
	参加者数	37	44

在宅で介護している方を対象に年 2 回開催し、44 人の参加があった。介護者同士が悩みを語り合いながら交流を深め、日頃の介護からリフレッシュする機会となり参加者から喜ばれた。今後は開催内容を検討し、より介護者がリフレッシュでき、交流を深められるものとした。

#### ⑤ 認知症ケア講座

秋田県認知症介護指導者である社協職員が講師となり、事業所や団体、地域などで認知症に対する理解を深めた。参加者は各々の立場から自分にできることを考える契機になった。

講師 グループホームふなみ管理者 成田 啓悦

- 平成 26 年 5 月 23 日 北秋田警察署
- 平成 27 年 1 月 9 日 今泉老人クラブ
- 平成 27 年 2 月 10 日 介護者のつどい
- 平成 27 年 2 月 20 日 脇神老人クラブ・婦人会

#### ⑥ 一人暮らし等高齢者交流会

地区名	開催日	会場	参加者
あいかわ	年 6 回	大館市・秋田市・他	延 145 人
もりよし	年 5 回	買い物ツアー、保育園児交流	延 83 人
あ に	年 6 回	買い物ツアー・交流会	延 88 人

高齢者相互の交流を深め、社会参加と孤独感の解消を図ることを目的に地域の民生委員児童委員、ボランティアの協力を得て実施している。ふだん一人で買物に出かけることが困難な高齢者を対象に買い物支援を行った。

参加者には好評であり、もっと多くの方が参加できるよう事業の周知に努めたい。

## ⑦ 高齢者夫婦世帯交流事業

「あいかわ地区」

- ・開催日 平成26年11月14日
- ・内容 能代市旧料亭「金勇」を見学して、昼食交流会や能代市内でのショッピングを楽しみながら交流を深めた。
- ・参加者 28人

「もりよし地区」

- ・開催日 平成26年10月28日
- ・内容 藤里町で開催された国民文化祭を鑑賞しながら、情報交換を行い交流を深めた。
- ・参加者 19人

## ⑧ 障がい者社会参加推進事業

地区	開催日	会場(内容等)	参加者
北秋田市	平成26年7月3日	能代市ショッピングモール・おとも苑(買い物ツアー)	10人
北秋田市	平成26年11月1日	大館市ショッピングモール・回転寿司(買い物ツアー)	5人
北秋田市	平成27年3月7日	北秋田市交流センター(焼きだまっこ鍋交流会)	17人
あに	平成26年6月30日	あに支所前(プランターに花植え)	11人
あに	平成27年3月10日	阿仁ふるさと文化センター(交流会)	19人

さまざまな障がいのある人が地域の中で安心して生活が送れるよう支援を行い、生き甲斐の持てる社会生活に欠かせない仲間づくりを後押しした。また、個別の心配ごとについては専門の職員が自立に向けたアドバイスを行うことができた。事業には民生委員児童委員やボランティアの協力を得ながら行うことができ、今後も地域との関わりを持ちながらつどいの場として事業を広めていきたい。

## ⑨ 当事者団体の支援

老人クラブ連合会、身体障がい者協会、手をつなぐ育成会、遺族連合会、ボランティア連絡協議会等の事務局を担当した。活動を支援して健康と生きがい、仲間づくりを推進した。

## ⑩ 除雪機及び福祉車両貸出事業

福祉車両は様々な団体に活用していただき喜ばれた。しかしながら、降雪量は多かったものの除雪機の貸出は少なかった。本事業を住民に周知を図るとともに、車両等貸出機器のメンテナンスを丁寧に行い、安全性の維持に努めたい。

- ・ 除雪機                      貸出件数              4 件
- ・ 福祉車両                    貸出件数              5 4 件      延べ利用者    1, 9 8 4 人

## 5、地域福祉活動の推進

### ① 全戸訪問活動

地区名		年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
たかのす	訪 問 世帯数		6, 573	6, 390	6, 745	6, 686	7, 236
あいかわ			2, 100	2, 074	2, 115	2, 020	2, 099
もりよし			2, 032	2, 041	2, 059	2, 032	2, 052
あ に			1, 173	1, 273	1, 233	1, 234	1, 172
合 計			11, 878	11, 778	12, 152	11, 972	12, 559
訪問先 世帯 区 分	A (意見・相談があった)		5, 955	6, 235	5, 931	6, 227	421
	B (話げたきた)		2, 883	3, 115	3, 290	2, 627	8, 525
	C (その他)		102	94	81	78	473
	P (不在)		2, 938	2, 334	2, 850	3, 040	3, 140

8年目になる全戸訪問活動は6月9日～22日までの期間、社協職員467人が参加し実施した。今回は「一人ひとりが見守り隊」認知症高齢者等見守りネット事業のパンフレットを持参しながら、事業のPRに努めた。訪問活動では住民の声を直に聞かせてもらい、民生委員児童委員、自治会長、町内会長とも連携を図りながら要援護者の把握に努めた。困難な事例等は関係機関に繋げることができた。

### ② 小ネットワーク活動

小地域ごとに自治会、民生委員児童委員と連携し、要援護世帯の状況を把握し、見守り活動を行った。また、全戸訪問からの訪問記録をもとに気になる世帯をピックアップし、近隣協力員にも参加してもらい小ネット会議を開催したケースもある。課題としては個人情報保護の問題、地域の見守り協力員の高齢化や空白な

ど挙げられるが、住民が安心して生活が出来るよう地域住民による支え合い・たすけあい活動を積極的に展開したい。

### ③ 地域安全活動

社協は北秋田警察署と地域安全に関する覚書を締結しており、交通事故や犯罪のない地域をめざして地域見守りネットワークに取り組んでいる。公用車にステッカーを貼り、犯罪や事故の発生抑止を図っている。平成26年度は行方不明者等の捜査活動は3件と少なかったものの、町中で転倒している方を発見し保護した事例が3件、新車の振り込め詐欺に対する注意喚起が2件、孤独死の発見や情報提供など地域安全活動に寄与する部分も多様化してきている。

### ④ 認知症高齢者等見守りネット事業

登録内訳	年度
	平成26年度
登録利用者数	21
登録協力者数（個人）	3
登録協力者数（団体）	14
登録協力者数（事業所）	50

認知症の方が住み慣れた地域で安心して生活出来るように、暖かく見守る仕組みづくりとして各関係機関と、地域住民の協力のもとで事業を展開している。幸いなことに、登録者が所在不明になり捜索したといった実績はなかった。今後も事業の趣旨をPRし利用者、協力員の増強に努めたい。

⑤ たすけあい資金貸付事業

地区名		年度				
		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
たかのす	貸付件数	38	42	37	26	23
	貸付金額	1,565,000	1,845,000	1,458,000	1,020,000	1,051,500
	償還金額	1,505,000	1,590,000	1,944,500	1,175,000	1,142,000
あいかわ	貸付件数	13	12	13	16	12
	貸付金額	460,000	415,000	480,000	670,000	410,000
	償還金額	558,000	431,000	561,000	763,000	870,000
もりよし	貸付件数	7	9	11	7	9
	貸付金額	245,000	460,000	570,000	300,000	440,000
	償還金額	462,000	235,000	484,000	526,000	445,000
あ に	貸付件数	5	4	3	4	8
	貸付金額	140,000	200,000	122,000	62,000	206,250
	償還金額	351,000	255,000	152,000	67,000	110,000
合 計	貸付件数	63	67	64	53	52
	貸付金額	2,410,000	2,920,000	2,630,000	2,052,000	2,107,750
	償還金額	2,876,000	2,511,000	3,141,500	2,531,000	2,567,000

貸付件数、金額とも昨年度に比べ減少した結果となった。また、生活保護世帯においては緊急的な事態が発生し申し込むケースも増えている。降雪量が多かったため、除雪資金として申し込むケースもあった。

長期滞納者には定期的に償還指導に努めた結果、償還につながっている。



⑥ 生活福祉資金貸付事業

地区名		年度				
		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
たかのす	貸付件数	9	4	3	0	0
	貸付金額	2,026,497	1,539,000	1,160,000	0	0
あいかわ	貸付件数	3	3	0	0	0
	貸付金額	1,872,000	4,940,000	0	0	0
もりよし	貸付件数	0	0	0	0	0
	貸付金額	0	0	0	0	0
あ に	貸付件数	1	0	0	0	0
	貸付金額	900,000	0	0	0	0
合 計	貸付件数	13	7	3	0	0
	貸付金額	4,798,497	6,479,000	1,160,000	0	0

相談を受け2件の申請を行ったものの、いずれも取り下げとなった。長期滞納者に対しては民生委員児童委員との連携により世帯状況を把握しながら償還指導を継続して行っていきたい。

⑦ 地域福祉権利擁護事業

契約内訳		年度	
		平成 26 年度	
上小阿仁村	実利用者数	2	
たかのす		8	
あいかわ		0	
もりよし		0	
あ に		1	
合 計		11	

平成26年度より秋田県社会福祉協議会より委託を受けて、新たに地域福祉権利擁護事業を開始した。上記以外に2件契約後、死亡と転居となり年度内の総契約件数は13件であった。基幹型社協としての初年度の相談件数としては先行の社協と同じような件数推移であり、人口規模を換算すると潜在ニーズは高い方ではないかと考えられる。今後も権利擁護の啓蒙活動を行い、必要な方に情報を届けたい。

⑧ 金銭管理事業

年度 地区名		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
たかのす	利用人員	43	41	39	36	29
あいかわ		1	1	3	3	12
もりよし		4	9	4	3	1
あ に		3	4	4	4	3
合 計		51	55	50	46	45

新しく始まった地域福祉権利擁護事業への移行が可能な方は、理解を得ながら順次移行していただいた。今後、地域福祉権利擁護事業の利用者で、困難事例など2次的なサポートとしてのニーズが予想されるため柔軟に対応したい。

⑨ ほほえみ祝い金

年度 地区名		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
たかのす	贈呈者数	104	102	95	96	91
あいかわ		29	26	35	33	25
もりよし		31	24	29	28	18
あ に		11	4	6	8	4
合 計		175	156	165	165	138

共同募金の助成金により民生委員児童委員、自治会長を通してお祝い金を添えて友愛訪問を行っており喜ばれている。また、共同募金の用途についても広く周知できる機会となっている。

⑩ 高齢者世帯防火査察指導

地区名	実 施 日	対象世帯
たかのす	平成 27 年 3 月 3 日～ 4 日	14 世帯
	平成 27 年 3 月 10 日～ 11 日	15 世帯
もりよし	平成 27 年 2 月 9 日	8 世帯
あ に	平成 26 年 11 月 5 日	8 世帯

一人暮らし高齢者等を消防署員と社協職員が訪問し、ストーブやガスコンロ等火の元の管理、たこ足配線、避難経路の確保、火災警報器について点検をした。高齢者の防火に対する意識が高まり、今後は全支所統一して暖房機器を

利用する雪が積もる前の11月～12月中に実施したい。

⑪ 手作り福祉弁当配布事業

・開催日 平成26年11月20日

もりよし地区で実施しており、75才以上の一人暮らし高齢者を対象に138食の福祉弁当をお届けした。米内沢小学校・前田小学校児童には絵手紙作成、森吉婦人会には弁当の調理、森吉民生委員児童委員・ボランティアの方には配布の協力を頂いた。

⑫ 介護用品貸出事業

地区名		年度				
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
たかのす	延利用 者数 にあ	26	26	37	35	45
あいかわ		31	21	21	27	16
もりよし		11	6	4	6	14
あ に		13	8	11	10	11
合 計		81	61	73	78	86

緊急的に福祉用具が必要な方へ、車イスや吸引器などを無償で貸し出しており喜ばれている。今後も介護用品を安全に使っていただくためのメンテナンスをしっかりと行いたい。

⑬ 心配ごと相談事業

相談内訳		年度				
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
電 話	相談件数	94	97	73	67	37
来 所		167	129	106	137	93
訪 問		24	26	2	2	20
合 計		285	252	181	206	150

・開設日 月～金まで年間177日

平成26年度で心配ごと相談事業は終了するが、今後は事務局内に生活困窮者自立支援法の相談窓口が開設となる。引き続き相談者の気持ちに寄り添いながら、きめ細かな相談体制を整えていきたい。

⑭ 無料法律相談

開設日	会場	相談者	担当弁護士
平成26年 4月24日	北秋田市地域福祉センター	7人	木元弁護士
〃 6月24日	〃	3人	木元弁護士
〃 8月25日	〃	7人	木元弁護士
〃 10月28日	〃	7人	木元弁護士
〃 12月18日	〃	8人	木元弁護士
平成27年 2月25日	北秋田市地域福祉センター	7人	木元弁護士

法律相談は、引き続きニーズが高かった。生前贈与や相続に関する相談が最多であった。

⑮ 心配ごと相談員合同研修会

開催日	テーマ	講師
平成26年4月11日	相談援助とは	北秋田健康福祉部福祉課長 米澤潤氏
平成27年3月4日	一年の相談を振り返って 事例検討など	木元慎一弁護士

相談に適切に対応するため、研修会を開催し実際の相談事例を踏まえ知識を深めた。

## 6、在宅福祉活動の推進

### ① 外出支援サービス事業

地区名		年度				
		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
たかのす	利用実人員	210	206	185	157	147
	延利用者数	4,602	4,637	4,536	4,344	4,412
あいかわ	利用実人員	125	82	57	62	65
	延利用者数	1,660	1,082	1,169	1,263	1,259
もりよし	利用実人員	46	39	35	34	31
	延利用者数	1,216	745	849	456	414
あ に	利用実人員	4	3	3	1	0
	延利用者数	173	162	117	2	0
もろび苑	利用実人員	5	6	4	7	8
	延利用者数	65	25	46	37	95
合 計	利用実人員	390	336	284	261	251
	延利用者数	7,716	6,651	6,717	6,102	6,180

毎朝運行前には、担当ドライバー（職員）に対し交通安全遵守を指示、健康チェック、車両の運行前点検など徹底して行っている。また、定期的に交通安全研修、リフター操作方法等内部研修を実施し、事故防止に取り組んでいる。

医療機関への通院利用が大半だが、通院時間が重複してしまうことや、休日の透析患者さんへの対応等の調整が今後の課題である。

## ② 食の自立支援事業

地区名		年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
たかのす	利用実人員	66	72	65	66	58	
	延 食 数	7,171	8,792	8,177	8,631	10,590	
あいかわ	利用実人員	22	20	23	25	17	
	延 食 数	1,044	1,414	1,678	2,302	1,662	
もりよし	利用実人員	27	24	21	18	24	
	延 食 数	2,732	2,370	2,573	2,173	2,856	
あ に	利用実人員	45	38	41	39	34	
	延 食 数	1,406	1,573	1,981	2,014	2,218	
合 計	利用実人員	160	154	150	148	133	
	延 食 数	12,353	14,149	14,409	15,120	17,326	

実人員は前年度対比で減っているが、一人当たりの利用回数、毎日型を希望する方が増えており食数が昨年度対比で2, 200食増となった。

365日の夕食の食事の提供と安否確認の目的で実施されており、利用者からは大変喜ばれている。厨房のスペースによる1日あたりの食数が限界となっており、今後の増加に伴う対応と配達時間の調整が課題となっている。

## ③ 緊急通報システム事業（あんしん電話）

地区名		年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
たかのす	設置 世帯数	279	290	277	270	258	
あいかわ		67	63	66	65	57	
もりよし		63	51	43	40	40	
あ に		73	66	64	64	58	
合 計		482	470	450	439	413	

一人暮らしの高齢者にとっては、設置することにより安心感につながっている。定期的な電池交換等のメンテナンスや状況確認を計画的に行う必要がある同時に、耐用年数が経過した機種との交換が必要。また、誤報が非常に多いため利用者と定期的にシステムを活用した連絡体制構築に努めたい。

④ 家族介護用品支給事業

地区名		年度				
		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
たかのす	利用実人員	42	56	63	48	49
	延利用者数	322	420	434	363	370
あいかわ	利用実人員	14	10	11	12	15
	延利用者数	101	66	66	69	104
もりよし	利用実人員	7	5	8	6	7
	延利用者数	42	39	32	44	47
あ に	利用実人員	8	9	7	8	10
	延利用者数	68	66	56	46	87
合 計	利用実人員	71	80	89	74	81
	延利用者数	533	591	588	522	608

支給対象者は要介護状態や所得により制限されているが、在宅で介護されている方にとっては精神的、経済的負担の軽減につながっている。平成 26 年度より、介護者の要望で支給対象品が紙オムツのみから介護用品全般に拡大となり利用者からは好評だった。今後も毎月 1 回の配達時には、介護者の状況確認に努めたい。

## ⑤ 福祉の雪事業

地区名		年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
たかのす	登録世帯数	662	711	747	512	498	
	延利用回数	3,513	4,453	6,157	4,317	4,593	
あいかわ	登録世帯数	149	184	196	155	144	
	延利用回数	1,477	2,189	2,861	1,988	1,866	
もりよし	登録世帯数	215	239	264	231	174	
	延利用回数	1,932	2,211	2,803	1,709	1,673	
あ に	登録世帯数	202	232	247	186	186	
	延利用回数	1,844	2,501	2,977	2,677	2,361	
合 計	登録世帯数	1,228	1,366	1,454	1,084	1,002	
	延利用回数	8,766	11,354	14,798	10,691	10,493	

住民にも浸透しており、除雪が困難な高齢者や障がい者世帯の安心感の確保につながっている。平成 25 年度から所得制限を設けたことにより登録世帯は減となっている。昨年度より降雪量が多く、1 回の除雪で限度額をオーバーする利用者も多かったが大きな混乱もなかった。また、所得制限により対象外となった世帯から、除排雪業者の照会相談があり適切に対応した。

## 7、介護保険事業

要介護状態になっても、施設や在宅において、適切な介護サービスを利用することにより、穏やかで安心した生活が送れるよう常に利用者の立場にたった相談援助や質の高いサービスの提供に努めた。利用者の方の尊厳を大切にし、一人ひとりの心に寄り添うきめ細かな介護に取り組んでいる。

また、新たに訪問看護事業を立ち上げ、病気や障がいを持った人が住み慣れた地域でその人らしく生活を送れるように他職種と協同しながら療養生活を支援した。

介護職員の人材確保が急務になっており、今年度は新卒・既卒を対象とした採用試験を 9 月と 1 月の 2 回実施した。今後もハローワークや秋田県福祉保健人材センターなど、各関係機関と連携をとりながら人材確保を推進し、ホームページなどを利用した求人の情報提供に努めたい。



① 居宅介護支援事業

事業所名		年度				
		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
たかのす	利用実人員	560	582	616	629	632
	延利用者数	5,133	5,291	5,171	5,285	5,381
あいかわ	利用実人員	202	202	199	197	216
	延利用者数	1,516	1,557	1,633	1,813	1,840
もりよし	利用実人員	173	183	198	208	223
	延利用者数	1,555	1,555	1,685	1,916	2,106
あ に	利用実人員	77	142	143	194	210
	延利用者数	884	1,099	1,155	1,388	1,883
ケアタウン	利用実人員	208	200	180	193	201
	延利用者数	1,571	1,600	1,675	1,626	1,679
合 計	利用実人員	1,220	1,309	1,336	1,421	1,482
	延利用者数	10,659	11,102	11,319	12,028	12,889

相談、利用者ともに昨年度と同様の実績となった。相談のみで利用に結びつかないケースも増えているが、定期的に声をかけながら必要な方に必要なサービスが提供できるよう努めた。

相談としては、家族の希望等により施設入所を希望されるケースが増えてきているが、住み慣れた自宅での生活を続けられるよう、支援を継続していきたい。

② 訪問介護事業

事業所名		年度				
		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
たかのす	利用実人員	322	298	292	269	257
	延利用者数	49,295	44,301	42,996	43,283	38,291
あいかわ	利用実人員	116	111	105	124	120
	延利用者数	9,363	10,389	10,568	10,822	10,276
もりよし	利用実人員	80	80	81	79	84
	延利用者数	11,292	10,952	9,795	10,086	10,122
あ に	利用実人員	53	75	72	54	67
	延利用者数	11,647	12,905	11,845	9,722	10,572
もろび苑	利用実人員	31	37	42	35	32
	延利用者数	10,759	10,736	10,404	10,815	10,693
合 計	利用実人員	602	601	592	561	560
	延利用者数	92,356	89,283	85,608	84,728	79,954

鷹巣地区では家族の希望として施設入所を望まれるケースや退院後在宅復帰が難しいケースが多くなってきていること、施設整備が進み重度利用者の施設利用が増えたことから、利用実人員、延べ利用者数とも大幅に減少している。

阿仁地区では利用実人員、延べ利用者数とも増え安定していた。

また、介護教室を開催し、地域に出向いて、在宅で介護サービスを利用しながら生活を継続するための支援を紹介し、介護者の負担軽減に取り組んだ。

### ③ 通所介護事業

事業所名		年度				
		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
地域福祉 センター	利用実人員	179	177	168	165	160
	延利用者数	11,235	11,363	11,166	11,506	10,907
つづれこ	利用実人員	106	101	100	100	100
	延利用者数	7,280	7,458	7,227	7,343	7,173
もりよし	利用実人員	153	136	130	143	140
	延利用者数	9,871	9,333	8,963	9,787	10,358
もろび苑	利用実人員	59	57	51	48	42
	延利用者数	2,896	3,036	2,770	2,761	2,595
ケアタウン	利用実人員	154	151	148	106	102
	延利用者数	10,760	10,908	9,601	6,186	6,458
サポートハウス	利用実人員	112	115	110	108	118
	延利用者数	7,288	7,660	8,007	7,811	7,703
合 計	利用実人員	763	737	707	670	662
	延利用者数	49,330	49,758	47,734	45,394	45,194

もりよしとケアタウン以外の通所介護事業所は、利用者が減少している。次年度は職員配置を見直し、中重度の方を積極的に受け入れながら、心身機能向上から生活行為向上訓練まで総合的に行いながら、在宅生活を継続できるよう支援していきたい。また、事業所それぞれの特長を活かしたサービス提供に努めたい。

### ④ 訪問入浴介護事業

事業所名		年度				
		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
たかのす	利用実人員	76	76	67	70	68
	延利用者数	1,785	2,058	1,951	1,947	1,834
もりよし	利用実人員	41	29	35	31	35
	延利用者数	996	1,014	1,058	951	929
合 計	利用実人員	117	105	102	101	103
	延利用者数	2,781	3,072	3,009	2,898	2,763

利用者の入院や長期ショートステイ利用、デイサービス利用などから実績が落ち込んだ。平成27年度は、たかのすともりよしの事業所を統合し、新たに1つの事業所としてスタートする。幅広い地域にきめ細やかなサービスを提供するとともに、今後も事業の周知に努めたい。

⑤ 訪問看護事業

保険別		年度
		平成26年度
医療保険	利用実人員	27
	延利用者数	399
介護保険	利用実人員	43
	延利用者数	1,499
合計	利用実人員	70
	延利用者数	1,898

平成26年度から新規事業として立ち上げ、居宅介護支援事業所や医療機関から多くの利用者を紹介していただき、当初の計画以上の実績につながった。利用者が少ない鷹巣地区の実績を増やすために、今後もサービスの質・ケアの質の維持向上に努めたい。

⑥ 福祉用具販売事業

地区名		年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
		北秋田市	販売件数	181	197	164	262

件数は伸びたものの、衣類や食事関連商品などの販売価格の低いものが多かった。法人外施設や事業所からも紹介をいただき販売することができたが、更なる外部へのPRを継続して行っていきたい。

⑦ 認知症対応型共同生活介護事業

事業所名		年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
グループホーム ふなみ	利用実人員		26	23	23	20	19
	延利用者数		6,515	6,535	6,492	6,533	6,566
つづれこ グループホーム	利用実人員		8	11	10	10	10
	延利用者数		2,898	2,910	2,900	2,902	2,883
グループホーム あいかわ	利用実人員		10	9	11	14	11
	延利用者数		3,285	3,286	3,270	3,225	3,244
合 計	利用実人員		44	43	44	44	40
	延利用者数		12,698	12,731	12,662	12,660	12,693

入居者の体調の大きな変化もなかったため、入退居も少なく安定して推移している。入居時の申込み方法を見直し、退居から次の方の入居までスムーズに運べるよう努めたい。

⑧ 小規模多機能型居宅介護事業

事業所名		年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
だんらん ハウス	利用実人員		30	22	26	29	27
	延利用者数		4,332	6,790	7,079	6,274	5,719

今年度は、利用者の体調不良や他施設への入居などで利用者が減少している。今後も事業所の特色を活かした柔軟なサービスの対応に努めながら、地域住民との交流事業を積極的に取り組みたい。

⑨ 外部サービス利用型特定施設事業

施設名		年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
もろび苑	利用実人員		31	37	42	35	32
	延利用者数		10,759	10,736	10,404	10,815	10,693

利用者はもろび苑入所者に限られているため、市より措置される入所者の介護度によって利用実績は変動する。今後、より介護が必要な入所者が増えると思込まれるので、それに併せた提供体制を整えていきたい。

⑩ 介護老人保健施設

施設名		年度				
		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
ケアタウン	利用実人員	119	114	117	120	102
たかのす	延利用者数	29,074	29,158	29,099	29,179	29,187

延べ利用者が増加しており、稼働率は安定している。今後も施設入所の申請及び待機者は増加傾向にあるため、入退所を円滑に進めながら在宅復帰から看取りまで幅広い要望にきめ細かく対応していきたい。

⑪ 通所リハビリテーション事業

施設名		年度		
		平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
ケアタウン	利用実人員	45	73	76
たかのす	延利用者数	444	3,881	4,441

利用されている方々の利用回数増により、延べ利用者が大幅に増えた。今以上に各職種の連携を密にし、より効果的なリハビリの提供に努めたい。

⑫ 短期入所生活介護事業

施設名		年度				
		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
ケアタウン	利用実人員	193	196	171	163	124
たかのす	延利用者数	10,603	10,404	10,368	10,279	10,524

昨年度と比較し延べ利用者数は増加しており、稼働率は安定した。長期利用者数が増加傾向にあるため、各事業所間の連携により長期利用の解消を図りながら新規利用者増に努めたい。

⑬ 福祉用具貸与事業

事業所名		年度				
		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
補助器具 センター	利用実人員	468	484	512	523	503
	延利用者数	3,419	3,548	3,583	3,722	3,889
福祉用具 センター	利用実人員	—	—	—	—	59
	延利用者数	—	—	—	—	282
合 計	利用実人員	468	484	512	523	562
	延利用者数	3,419	3,548	3,583	3,722	4,171

居宅介護支援事業所を訪問したり、地域に積極的に出向いたりしてPRを行ったが、思うように利用増にはつながらなかった。特に冬期間は車いす、歩行器などの用具の利用が減少する傾向にある。新製品の情報提供などを行うとともに、多様な要望に応えながら実績増につなげたい。

⑭ 福祉用具安心サポート事業

事業所名		年度				
		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
補助器具 センター	延利用者数	372	472	620	668	649
	福祉用具 センター	延利用者数	—	—	—	—
合 計	延利用者数	372	472	620	668	675

介護保険対象外の方へ福祉用具を有料で貸し出しており、有効に活用されている。要介護1以下の方でも介護用ベッドを希望する方が増えており、機能等に対する要望が多様化している。

8. 指定管理施設運営事業

市の条例及び関係法令に基づき、平成26年度は市から指定管理者の指定を受けている9施設の管理運営を行った。質の高いサービスかつ安全安心なサービスを提供すると共にサービスの拡大、施設の有効活用や地域交流を図りながら効率的運営かつ管理運営費の削減に努めた。しかし、施設の老朽化に伴う修理費の

増加や一部器具・備品の更新など課題も在り、今後も北秋田市と連携をとりながら適切な施設の管理に努めたい。

① 養護老人ホームもろび苑

施設名		年度				
		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
養護老人ホーム もろび苑	利用実人員	51	59	60	54	54
	延利用者数	17,921	18,019	17,567	18,021	18,194

看護職員を2名体制にして健康管理に努めた結果、例年より利用者の入院など体調の変化が少なかった。利用者の平均年齢が年々高くなってきているので、今後も健康管理に努めたい。

② サポートハウスたかのす・森吉生活支援ハウス

事業所名		年度				
		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
サポートハウス たかのす	利用実人員	24	21	26	21	24
	延利用者数	7,216	7,203	6,591	6,557	6,591
	地域交流事業	47	50	32	28	84
森吉生活 支援ハウス	利用実人員	24	27	25	23	25
	延利用者数	7,250	7,106	7,193	6,493	6,213
合 計	利用実人員	48	48	51	44	49
	延利用者数	14,466	14,309	13,784	13,050	12,804

<住居提供事業>

サポートハウスたかのすは、現在20室満室となっているものの森吉生活支援ハウスは夫婦部屋の申込が全くない状況である。自立高齢者の生活支援施設だが、入居者が高齢化してきており、介護の必要な利用者が増加してきているため日常生活の安全確保が課題となっている。

<地域交流事業>

児童の福祉体験事業の実施が、利用実績に結びついた。今後も地域や家族が交流できる場を積極的に設け、施設の有効活用を図っていきたい。



### ③ 老人憩いの家

施設名		年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
ことぶ き荘	会館日数		254	254	308	307	308
	延利用者数		2,308	2,260	2,242	2,251	2,407

他の公共施設の関係で利用者が微増となった。

## 9. 児童福祉の推進

### ① 児童館の運営

児童館名			年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
鷹巣児童館	延利用者数	幼児		515	683	447	492	739
		児童		17,962	17,895	19,107	20,270	20,788
		大人		837	830	749	712	671
太田児童館	延利用者数	幼児		448	589	489	400	296
		児童		8,296	8,163	7,786	7,534	9,493
		大人		749	862	786	743	1,853
鷹巣中央児童館	延利用者数	幼児		634	783	651	578	418
		児童		13,889	14,088	13,836	12,698	12,645
		大人		981	1,265	1,091	1,013	507
綴子児童館	延利用者数	幼児		413	543	462	369	285
		児童		11,283	10,266	11,305	10,983	9,798
		大人		722	859	872	723	737
鷹巣西児童館	延利用者数	幼児		852	433	456	374	348
		児童		9,372	11,352	11,975	11,096	13,079
		大人		899	630	642	628	658
合 計	延利用者数	幼児		2,862	3,031	2,505	2,213	2,086
		児童		60,802	61,764	64,009	62,581	65,803
		大人		4,188	4,446	4,140	3,819	4,426

各児童館が特色ある活動を実施したほか、学校、家庭、各関係機関との連携を図り、児童が安全安心に過ごせる居場所作りに努めた。育児サークルの実施や各関係機関との共催での世代間交流の実施など、乳幼児親子の子育て支援の充実と地域の方々や高齢者施設の方々との交流を深めることができた。

障害児への共通理解を深め、対応や援助の工夫に努めた。また、内部研修を継続して行い、職員の資質向上に努めた。

② 子育てサポートハウス「わんぱあく」の運営

区 分		年 度				
		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
つどいの広場 一時預かり 病児保育 病後児保育 電話相談 来所相談 見学者 合 計	延利用 者数	7,740	8,737	7,945	6,189	6,401
		1,007	1,030	1,144	1,058	970
		12	6	4	2	0
		21	4	6	10	49
		—	19	31	21	24
		187	137	124	114	84
		1,711	2,395	2,175	2,398	1,685
		10,678	12,328	11,429	9,792	9,213

集いの広場では、子育て家族の憩いの場、交流の場として気軽に集える環境づくりを行い、個々の子育て世帯に寄り添う支援に努めた。

また、北秋田市の子育て支援センター等と連携し、各種子育て支援に関する情報提供を行い育児サークルを開催し、子育てをしているお母さん達にその喜びや楽しさを味わってもらい、リフレッシュ出来る機会をつくった。

一時預かりでは、子育て中のご家族の育児軽減をサポートする機能を果たし、多くの方々に利用いただいた。年度後半の12月からは0歳児保育園待機児童の受け入れを行い就労世帯の支援に努めた。

今後も北秋田市の子育て支援施設として、全域の子育て世帯に事業を知っていただけるようPR活動をしていきたい。

③ 障害児通所支援事業「もろびこども園」の運営

事業所名		年 度				
		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
もろび こども園	児童発達 支 援	1,092	1,066	959	1,084	945
	放課後等 データベース			146	200	351
	保育所等 訪問支援			9	0	0

乳幼児への「児童発達支援」、学齢児への「放課後等デイサービス」、保育所等への「保育所等訪問支援」を行った。

児童発達支援では、通園児童の発達状況にあわせて個別支援計画を作成し、個別指導、集団活動、体験型プログラムを実施した。同時に、家族にも子どもの発達や就学に向けての学習会等を行った。また、すこやか療育支援事業とあわせて、多子軽減措置も平成26年度から始まり、保護者の利用者負担軽減となっている。

地域交流では、老人クラブと毎月継続した交流を行った。行事の際には民生委員児童委員や秋田北鷹高校生など多くのボランティアの協力を得て実施した。また、地域や市の事業に協力し、支援が必要な子どもや悩みを持つ保護者へアプローチし、療育の利用へつなげている。

放課後等デイサービスは、児童・保護者のニーズに対応し、学校とも連携して療育を実施し、実・延べ人員ともに増加した。

今後とも、関係機関との連携を一層密にして情報交換を行い、児童の療育に反映させていきたい。

#### ④ 相談支援事業

事業所名			年度		
			平成24年度	平成25年度	平成26年度
北秋田市 社協相談 支援事業所	特定	利用実人員	23	40	70
		延利用者数	68	173	608
	障害児	利用実人員	0	0	34
		延利用者数	0	0	144
	一般	利用実人員	0	30	55
		延利用者数	0	179	567
もろび こども園	特定	利用実人員	2	12	4
		延利用者数	4	44	20

平成26年度より、専従の職員配置となり、特定相談支援・障害児相談支援・一般相談支援ともに大幅な利用者の増加につながった。障害児相談支援事業は平成26年度からサービス提供が始まったが、モニタリングの期間がほぼ同一であり、実績が月によって開きが出ている。一般相談支援事業は、毎月モニタリングを行うことから、コンスタントに実績に結びついている。

自立支援協議会の相談支援部会で毎月市内の相談支援事業所と情報交換を行い、密接な連携を図っている。また、事例検討や研修も行っており、相談支援専門員としてのスキルアップとサービスの質の向上を図っている。

もろびこども園の相談支援事業では、児童・保護者のニーズを個別支援計画に反映させ、ニーズに応えることができた。

## 10、共同募金運動への協力

### 【赤い羽根共同募金運動】

地区名等		年 度				
		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
目 標 額		11,116,000	12,082,000	12,000,000	12,000,000	12,000,000
達 成 率		102.1%	98.7%	98.2%	97.4%	95.8%
たかのす	募金額	5,402,495	5,547,846	5,447,500	5,351,932	5,375,555
あいかわ		2,417,413	2,628,191	2,679,874	2,707,436	2,722,348
もりよし		2,414,480	2,477,027	2,466,152	2,429,167	2,347,573
あ に		1,116,471	1,266,771	1,188,247	1,195,252	1,056,786
自動販売機					18,505	38,952
合 計		11,350,859	11,919,835	11,781,773	11,702,292	11,541,214

目標額12,000,000円に対して95.8%の実績。残念ながら前年度と比較して161,078円の募金額の減となった。世帯数の減少や経済状況の低迷など厳しい状況はあるものの、今以上に募金の使い途を知っていただく活動・事業の展開が必要である。

### 【公募によるボランティア・市民活動応援事業】

内 訳		年 度				
		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
申込団体数		27	27	36	33	28
申込事業数		31	33	42	34	29
助 成 額		1,613,833	1,723,267	2,500,315	2,128,197	2,135,163

「公募によるボランティア・市民活動応援事業」として、公募による助成申請、プレゼンテーションによる公開審査を実施し、使い途の透明性を図りながら地域課題の発見や他のグループの活動を知り交流することで、地域の活性化を図ることができた。